

安住寺だより



禅の心

第146号

発行 安住寺（年4回発行）

臨済宗南禅寺派

大分県杵築市大字南杵築379

〒873-0002 TEL 0978-62-2680

編集 矢野明玄

印刷 安住寺コピー室

URL <http://www.anivuii.net/>

「仰げば尊し」と「蛍の光」

三月は卒業のシーズンです。東日本大震災の年に入学した子供も、それぞれ中学・高校を卒業することになりました。早いものです。中には、三年間を遠く離れた他校の空き教室を間借りしての学校生活を送った子供も居ると聞きました。不自由な中にも、親や友達に感謝する言葉は印象的でした。仏教では『四恩』を説いています。父母の恩、国土の恩、師の恩、衆生の恩の四つです。卒業式では「蛍の光」や「仰げば尊し」が歌われてきました。卒業の折に、親や先生や友に対してお世話になった恩を感じ、口にするということは大切に尊いことです。

無縁供養 説教会

25日	午後一時	卒塔婆供養
(金)	午後二時	説教
26日	午前十一時	合掌会総会
(土)	午後一時	卒塔婆供養
	午後二時	説教
4月	午後三時半	総供養施餓鬼

布教師 糟屋郡須恵町 道林寺住職

貝野孔隆 師

卒塔婆供養料、一本五百円です。出来るだけ事前の申込をお願いします。

最近では歌われないようですが、改めて「蛍の光」と「仰げば尊し」の歌詞を口ずさんでみませんか。

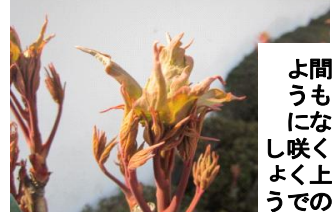
一、蛍の光、窓の雪、書読む月日、重ねつゝ、何時しか年も、すぎの戸を、開けてぞ今朝は、別れ行く。二、止まるも行くも、限りとて、互いに思ふ、千萬の、心の端を、一言に、幸くと許り、歌うなり。三、筑紫の極み、陸の奥、海山遠く、隔つとも、その真心は、隔て無く、一つに尽くせ、國の為。四、千島の奥も、沖縄も、八洲の内、護りなり、至らん國に、熱しく、努めよ我が背、恙無く。

久しぶりにご覧になって、どうでしょう。二番までは歌った記憶があつても、三番、四番は初めて目にする方も多いのではないのでしょうか。流石に明治に作詞された歌詞で、当時の国威を表しています。日清・日露戦争後は「台湾の果ても樺太も八洲（やしま）の内の守りなり」と、歌詞を変えていたそうです。

「蛍の光、窓の雪」は、『螢雪の功』で有名な中国・晋代の逸話が元となつています。車胤（しやいん）は、螢を沢山捕まえて袋に入れ、その光で本を読み、孫康（そんこう）は、雪を窓の外に積み上げ、月の光を反射させて勉強をした。その努力が実



門前の牡丹



問もなく咲く上でのよ

つて高級官吏に出世したという話です。「仰げば尊し」にも引用されています。歌詞は、次のとおりです。一、仰げば尊し我が師の恩、教えの庭にもはや幾年、思えばいと疾しこの年月、今こそ別れめいざさらば。二、互いに睦し日ごろの恩、別る後にもやよ忘るな、身を立て名をあげやよ励めよ、今こそ別れめいざさらば。

三、朝夕馴れにし学びの窓、螢の灯火積む白雪、忘る間ぞなきゆく年月今こそ別れめいざさらば。三番の「蛍のともしび積むしらゆき」の文句が螢雪の功を表現しています。この春、多くの青年が学び舎を後にしました。難しい世の中だからこそ、働き甲斐があると信じます。新たに進学した学生さんには、大いに学問を深めることを期待するものです。フレ、フレ。（閑栖）

お地蔵さんの

悲願と共に

お彼岸を前にして、ご不幸が続
き慌しい日が続いた。

しかし、それ以上に逆縁の葬儀
がかさなり、なんとも寂しい想い
がしている。

現在ではあまり言われないが、
逆縁の場合、故人の親は火葬場ま
で伴ってゆかない風習や、故人の
位牌を持たないという風習もあ
ったといわれる。

これは、子供に先立たれたり、
自分より若い者が先に逝く悲し
みが深く、火葬場まで伴うことで、
故人が残ったものの悲しみに曳
かれ成仏できないとされたから
である。

民間信仰に「この世」と「あの
世」の境には三途の川があるとさ
れている。三途の川は三瀬川とも
いい、この川の河原を「賽の河原」
という。

賽の河原では、特に幼くして亡
くなった子供が、親を残して先立
った不孝の報いを受ける。

親への供養と、小さな手で石を
積み回向する。しかし完成するや
鬼が出てきて塔を壊し、何度も何
度も石積みの苦しみを受ける。そ
の子供らを哀れみ、救いに、お地
蔵様が現れるという言い伝えと
なっている。



この信仰を詠った和讃「賽の河
原地蔵和讃」がある。

「賽の河原地蔵和讃」

是は此世のことならず
死出の山路の裾野なる
さいの河原の物語
聞くにつけても哀れなり

二つや三つや四つ五つ
十にも足らぬ嬰子が
西の河原に集まりて
父上こいし母こいし
恋し恋しと泣く声は
此の世の声とは異なり
悲しき骨身を通すなり
彼の嬰子の所作として
河原の石を取り集め
是にて回向の塔を積み
一重積んでは父のため
二重積んでは母のため
三重積んでは古里の
兄弟我身と回向して
昼は独りで遊べども
日も入相の其の頃は
地獄の鬼が現れて
やれ汝らは何をする
娑婆に残りし父母は
追善供養の勤めなく
ただ明け暮れの嘆きには
惨や悲しや不憫やと
親の嘆きは汝らが
苦患を受くる種となる
我を恨むる事なかれ
黒金棒をとりのべて
積みたる塔を押し崩す
その時能化の地藏尊

ゆるぎ出でさせ給いつつ
汝ら命短かくて
冥土の旅に来るなり
汝等父母娑婆にあり
娑婆と冥土は程遠し
我を冥土の父母と
思うて明け暮れ頼めよと

幼き者を御衣の
裳の内にかき入れて
哀れみ給うぞ有難き
未だ歩まぬ幼子を
錫杖の柄に取り付かせ
忍辱慈悲の御肌へに
抱きかかえて撫で擦り
哀れみ給うぞ有難き
南無や大悲の地藏尊
南無や大悲の地藏尊



この「地蔵和讃」のように地藏
菩薩は、子供や弱いものを救うも
のである。

『川中流の魂田』

古流の剣術、小野派一刀流を習っている。「切り結ぶ太刀の下こそ地獄なれ 踏み込み見れば後は極楽」宮本武蔵の言葉とされるが、一刀流の極意も一太刀の切落としてある。

この一刀流の縁で、ある剣道場の開館三十周年記念で師匠と演武を披露した。

式典の初め、道場中で一番小さな幼稚園程の子が、島田虎之助の「剣は心なり 心正しからざれば 剣又正しからず」の有名な句と論語の一節を、大きな声で堂々と暗誦して見せ驚いた。この道場の子には当たり前のことらしい。

この道場からは、強いだけでなく、社会に貢献する素晴らしい人材が沢山輩出されている。

今年の説教会の二日目は、幸いに土曜日で時間のある子供さんも多いはず、「人身受け難し、今すでに受く。仏法聞き難し、今すでに聞く。」とあります。

三つ子の魂百まで、幼い子供さん、お孫さんと是非、布教師さんのお話を聞きにいらして下さい。

のサバイバル反応である。

第2期（思慕と探索の時期）

信じられない思いや受け入れられない気持ちの中で、必死に対象を取り戻そうとする。

第3期（混乱と絶望の時期）

じきに否定できない現実直面し、怒りと恨みが湧き起こる。拷問のような悲嘆の嵐と戦いながら、喪った対象への愛着を確認する。

第4期（脱愛着と再起の時期）

あきらめのなかで現実を認め、愛着を心に内在化し、人間の命のはかなさや無力を受け入れ、立ち直っていく。

突然大切な方を亡くし、死に直面する。ご遺族にとっては、悲しみの中で慌しく時が過ぎていく。枕経をあげ、通夜・葬儀、七日ごとの中陰供養として四十九日の法要。

七日ごとにお参りに行きますと「もう一週経ったかな」「もう



四苦八苦の苦しみは「地獄極楽はこの世にあり」とも言われるように、私たちの生きているこの世の現実のことでもあります。

地藏菩薩の立てた「一斉衆生済度の請願を果たさずば、我、菩薩界に戻らじ」の大慈大悲の請願と共にこのお彼岸を過ごせればと願う。

明玄合掌

また、地藏菩薩は如来に次ぐ見地を持ちながら、お釈迦様が入滅後、五十六億七千万年後に弥勒菩薩が現れるまでの、無佛の時代に「一斉衆生済度の請願を果たさずば、我、菩薩界に戻らじ」と請願を立て、六道に苦しむものを救わじとこの世に現れたものである。

大切な方を亡くした喪失感、逆縁であれば尚更なおおきいはず。

悲しみ喪失感から立ち直る過程を、喪の作業、グリーフ・ワーク、悲嘆のプロセス、などといいます。

最初に使われたのはフロイト（1856-1939）の論文「喪とメランコリー」の中で、他多くの精神分析学者が示しています。

イギリスのジョン・ボウルビイの記した「喪の作業」では次の4つの段階で説明しています。

第1期（感情麻痺の時期）

ショックのあまりに、否認が起きる。実感がわかず、状況を鮮明に覚えている。

不意の衝撃に圧倒されないため



廣石碩田先生筆 ご希望の方に差し上げます。

玄道和尚50回忌・大般若法要



50回忌行道(ぎょうどう)の様子。右回りに歩きながらお経を唱えます。

一月十七日、当寺第十四世綾部玄道和尚の五十回忌法要と恒例の大般若会を執り行いました。県内の和尚方十四名

と檀信徒約百四十名が参拝され、久方ぶりに厳かで盛大な法要でした。記念に総代各位のご寄付で本堂幕が新調されました。皆様には法要会費のご協力を頂きました。お礼申しあげます。



「大般若経」六百巻の転読。呪文を唱えながらパラパラと左右に広げます。法要を短時間に済ませる工夫？です。

東日本大震災義援金報告

25年度の支援結果

3月15日 物品購入代金 80,000円
(内お賽銭 66,577円)

今回の支援は、陸前高田市の物産を購入しました。説教会の参拝者にお配りします。

これまでの合計金額 765,646円
(内お賽銭 360,802円)

今後もお賽銭の全額を義援金として、支援いたしますので引き続きご協力をお願いします。

錦江橋架け替え工事
三月十八日
現場工事
三月十八日
現場工事



朝日に映える南禅寺の三門

地下鉄・東西線「蹴上」
駅より五分位で便利です。

電話 075-771-2846

京都の旅は、南禅会館へ泊まろう。

行事予定

四月～七月

場合によって、変更することもあります。

四月七日 独秀流御詠歌
四月八日 花祭り(降誕会)

八日午後 花祭り講演会(市仏教会)

四月十二日 坐禅会(朝六時)

四月十七日 御詠歌・観音講

四月二十一日 写経・写仏の会

四月二十五日 無縁供養・説教会

四月二十六日 合掌会総会・説教

四月二十九日 坐禅会(朝六時)

五月八日 独秀流御詠歌全国大会

以後の予定

御詠歌

5/7、5/16、
6/6、6/16、
7/7、7/17

坐禅会

5/10、5/24、
6/14、6/28、
7/12、7/26

写経会

5/21、6/23、
7/23



お花見しませんか

4月2日お昼頃 藤ノ川中尾の桜園でお花見をします。閑栖和尚が行きますので、おにぎり飲み物持参でお出かけ下さい。(雨天の時は晴れ次第)